

NotesプラットフォームとMicrosoftプラットフォーム の共存を成功させるために

著者
Technology Strategy Research LLC



ホワイトペーパー

© Copyright Quest® Software, Inc. 2009. All rights reserved.

このガイドには著作権で保護されている機密情報が含まれています。このガイドで説明されているソフトウェアは、ソフトウェアライセンスまたは守秘義務契約の下に提供されています。このソフトウェアは、適用される契約の条項に準拠している場合のみ使用またはコピーできます。このマニュアルの一部または全部を複製または転送することは、購入者による個人使用以外の目的では、Quest Software, Inc.の書面による許可がない場合、複写および記録を含む電子的または機械的ないかなる手段でも禁じられています。

保証

この文書に含まれている情報は、予告なく変更されることがあります。クエスト・ソフトウェアは、この情報に関するいかなる保証もいたしません。クエスト・ソフトウェアは、商品性および特定目的への適合性に関する黙示的な保証については一切免責されるものとします。クエスト・ソフトウェアは、この情報の提供または使用に起因して申し立てられた、直接的、間接的、付随的、または結果的ないかなる損害についても責任を負わないものとします。

商標

このガイドで使用されているすべての商標および登録商標は、その所有者の財産です。

ワールドワイド本社
5 Polaris Way
Aliso Viejo, CA 92656
www.quest.com
電子メール: info@quest.com
米国およびカナダ: 949.754.8000

各地域および海外の所在地情報については、本社サイトを参照してください。

最終更新日 – 2009年1月

目次

はじめに	4
共存のための計画	5
ユーザへの影響を最重視する	5
共存に伴う課題	5
ビジネス要件の理解と充足	6
相互運用性の実現：共存期間中の自動化の利用	7
自動化ソリューションの選択	7
カレンダーデータの忠実性の確保	7
文書内のリンクとアイコンの処理	8
NotesメールおよびカレンダーデータのSharePointでの表示	8
アプリケーションの処理	8
まとめ	9
QUESTの共存ソリューション	10
TECHNOLOGY STRATEGY RESEARCHについて	11
QUEST SOFTWARE, INC.について	12
クエスト・ソフトウェア株式会社 (QUEST SOFTWARE, INC.) へのお問い合わせ	12
クエストサポートへのお問い合わせ	12

はじめに

IBM Lotus NotesからMicrosoft Exchange ServerおよびMicrosoft Office SharePoint Serverに移行する場合も、この2つのプラットフォーム間で円滑な共存を達成するのが第一の目的である場合も、相互運用性の確保が主要な課題であり、相当な複雑さを伴います。Lotus Notesおよび、Microsoft ExchangeとSharePointとの間で、企業の電子メール、カレンダー、ポータルコンテンツ、アプリケーションを円滑に運用できるようにすることは、複数の段階からなる複雑なプロセスです。移行期間または2つのプラットフォームが並行して共存する期間は、数週間から数カ月、場合によっては数年に及ぶ可能性があります。プロセスを円滑に進めるには、広範囲にわたる計画を立て、着実に遂行していく必要があります。

プラットフォームを移行する場合も、2つのプラットフォームを共存させる場合も、数カ月間または長期的に両方の環境を同時に運用する必要があります。この共存期間には2つの目的があります。1つは元の環境が正しく複製されていることを確認することにより、新しい環境を検証できるようにすることです。もう1つは移行期間中または長期的に、異種の環境およびアプリケーション間でユーザが必要な共同作業を中断することなく実行できるようにすることです。

このような継続性を提供するためには、プラットフォーム間の相互運用が必要になります。たとえば、Lotus Notesから送信された電子メールがExchangeによって正しく処理され、Outlook電子メールクライアントで正しく表示される必要があります。その逆も同様です。また、Lotus Notesではカレンダーアイテム、文書内リンク、アプリケーションがポータルを通じて連携するため、これらの機能にはExchangeおよびSharePointとの通信が必要です。効果的な共存ソリューションは、これらすべての課題に対処する必要があります。

このホワイトペーパーでは、プラットフォームの移行と長期的な共存に関して、計画の段階で考慮する主な課題について概説します。また、この目標を達成するための自動化の価値についても説明し、共存を自動化するためのソリューションを選択する際に考慮すべき基準を詳しく解説します。

共存のための計画

ユーザへの影響を最重視する

共存計画では、ユーザへの影響を何よりも配慮する必要があります。ユーザはプロジェクトの影響を一切意識することなく、異なるメッセージングプラットフォーム間で共同作業を継続できる必要があります。このことは管理者やヘルプデスクの負担を軽減し、組織全体にとっても移行に伴う懸念が解消されます。

必要な共存のレベルは組織によって異なります。組織によっては、特定の業務についてのみ Microsoft テクノロジーを採用し、他の業務については Lotus Notes プラットフォーム上に残す場合があります。また、プロジェクトの期間がきわめて短い組織では、必要な共存期間も短くなります。一方で、事業部門の買収や売却が頻繁に発生する大規模組織では、共存の管理が常に必要となる状況も考えられます。

相互運用プロジェクトは多くの場合、部門単位で実施されます。これには、部門特有の業務を同時に処理できる一方で、新しいプラットフォームに関してはエンドユーザ同士が内部でサポートし合うことを期待できるという利点があります。共存の重要性は、情報伝達の経路と組織全体のアプリケーションを保持する点にあります。ただし、買収の結果として移行が実施される場合、部門単位の移行は現実的でない可能性があります。この場合は、それぞれの組織の類似業務を実行するグループが統合されるため、より綿密な共存計画の重要性が増します。

共存に伴う課題

実効性のある計画を立てるためには、共存に伴う課題について理解する必要があります。以下に示すのは、計画段階で検討する一般的な共存シナリオの例です。

1. **メールとカレンダーの混在環境。**メールとカレンダーの機能に関して、Notes を使用しているユーザと Exchange のサービスを利用しているユーザが混在する環境では、2 種類の電子メールサーバ間でメッセージがやり取りされる際に、メッセージの一部が失われる場合があります。たとえば、定例会議の説明や会議招集の添付ファイルといった情報が失われ、異なるシステム間でのリソースの調整に支障をきたすことがあります。誰が会議招集を送信したかに関係なく、異なる環境のユーザが同じ機能を利用できることが必要です。
2. **他のアプリケーションへのリンクが含まれているアプリケーション文書や電子メールメッセージ。**Notes データベース、QuickPlace サイト、電子メールファイルには、他の Notes データベース内の文書への文書リンクや Web ハイパーリンクが含まれることがよくあります。Notes と Exchange を統合すると、このようなリンクの多くは無効になるか、適切なアプリケーションとの関連付けが失われます。エンドユーザが使用するプラットフォームに関係なく、プロジェクトが終了するまでの間、リンクの動作が変わらないようにすることが重要です。
3. **メールメッセージ(アクティブメールを含む)のルーティング。**Notes ユーザまたは Notes アプリケーションは、@関数や LotusScript コードが定義されたボタンやフォームを電子メールメッセージに含めて送信できます。統合により、このようなメッセージの機能が失われる可能性があります。ユーザがこのようなボタンやフォームを Outlook から使おうとしたときにも、その動作が変わらないようにすることが求められます。

4. **SharePoint での Notes アプリケーションの表示。**特定のアプリケーションを一時的に Notes 内に置いておく必要があるが、メインのユーザインタフェイスとして SharePoint を使いたいと考えるユーザがいたとします。この場合、ユーザは実行中の Notes アプリケーションに SharePoint 内部からアクセスできる必要があります。また開発者は、Notes から受信したバックエンドデータが表示される、事業別アプリケーションまたはエグゼクティブダッシュボードへのインタフェイスを SharePoint 内に構築できる必要があります。
5. **Notes クライアントと SharePoint の接続。**メールやアプリケーションのために Notes クライアントを残しているが、特定の業務のために SharePoint を使用することになったユーザについて考えます。このようなユーザにとっては、選択した電子メールメッセージやアプリケーション文書を各自の SharePoint ドキュメントライブラリ、チームサイト、レコード保存ソリューションに転送できる必要があります。また、Notes アプリケーションの開発者は、SharePoint ポータルに接続できるようにアプリケーションを拡張できることが必要です。

相互運用性プロジェクトでは多くの場合、これらのシナリオの一部またはすべてを考慮に入れる必要があります。そのためには入念な計画が必要です。Lotus Notesと、ExchangeおよびSharePointの相互運用性を確保するためにIT部門に求められる重要事項は、共存期間全体にわたって両方のプラットフォームでアクセスと動作の同等性を確保することです。しかし、これには困難が伴う場合もあります。プロジェクトですべての業務を移行する場合、2つのプラットフォームを結び付ける技術的な修正や統合は、移行が完了した時点で廃止するだけで済みます。一方、プロジェクトの期間中に異なるプラットフォーム間で同等の動作とシームレスな情報伝達を実現するためには、両方のプラットフォームについて深く理解し、試行錯誤を繰り返すことが必要になります。

ビジネス要件の理解と充足

計画プロセスではまず、組織のビジネス要件を明確化します。これには、Lotus Notes環境とMicrosoft環境のそれぞれに該当する要件や、その他の新しい要件が含まれます。次に、明らかになった要件を、もう一方のプラットフォームの対応する機能に可能な限りマッピングする必要があります。しかし、既に述べたようにLotus Notesには、電子メールや文書内のリンクなど、ExchangeまたはSharePointへのマッピングが容易でない機能が多数含まれています。加えて、Notes向けに作成された一部のアプリケーションについては、SharePointポータル内で動作させるために移植または変更が必要となります。

このように共存期間中および期間後にビジネス要件を満たすには複雑性が伴うことが、共存計画が必要である理由です。IT組織は、移行元のプラットフォームにおける電子メール機能、アプリケーション、文書、リンク、その他の機能の動作と、移行先のプラットフォーム上でそれらの機能を動作させるための方法（拡張または制限を伴うこともあります）を正確に理解する必要があります。

相互運用性の実現：共存期間中の自動化の利用

プロジェクトの初期段階（移行または共存計画の策定）は、大部分が人手による作業です。特に、使用されているNotesの機能を識別し、それらの機能を新しいプラットフォームにマッピングする作業では、ユーザへの聞き取り調査、要件の草案作成、機能の比較、プロトタイプの準備とテスト、ユーザからのフィードバック収集などにビジネスアナリストやシステムアーキテクトの参加が必要になります。これらの作業はどれも自動化できません。

しかし、残りの段階のほとんどは、実質的に自動化できます。ユーザ機能の要件を追跡したり、電子メールボックス、文書、その他のデータをNotesからExchangeおよびSharePointに移動したりする作業は自動化によって効率良く行えます。電子メール配信リストの識別と伝達も自動化することができます。

自動化ソリューションの選択

ビジネスアナリストとシステムアーキテクトが移行または共存期間の計画を完了したら、ITプロジェクトマネージャがその実施計画を作成する必要があります。プロセスがプロトタイプ化され、十分に理解された時点で、一部の相互運用タスクを実行するためのスクリプトをITプロフェッショナルが作成できる場合もあります。ただし、組織内で作成したスクリプトは複雑でエラーを起しやすくなるものになりがちで、必ずしもすべてのシナリオを網羅するとは限りません。また、ソリューション用のスクリプトを組織内で作成するために必要な時間が、移行スケジュール全体の遅延につながる可能性もあります。

通常は、サードパーティの移行ソリューションを利用するのが最良の選択肢です。共存ソリューションの選定に際して考慮すべき重要な基準は、次の2点です。

1. そのソリューションは、必要な機能を問題なく統合できるか。
2. そのソリューションは、共存シナリオの自動化に役立つか。

ITプロジェクトマネージャは、自動化ソリューションが前述の共存に伴う課題を効果的に解決できるかどうかを見極めなくてはなりません。自動化ソリューションでは、2つのプラットフォーム間でやり取りされる電子メールを単に監視するだけでなく、以降で説明するように、あらゆる添付ファイル、カレンダーの予定、文書リンク、その他のデータを正確に処理することも求められます。

カレンダーデータの忠実性の確保

自動化ソリューションでは、カレンダーデータがNotesユーザとExchangeユーザ間でやり取りされる際にそのデータの忠実性を確保できなければなりません。特に求められるのは、次の点です。

- カレンダー上の招集の繰り返しパターンをすべて維持する。
- カレンダー上の招集のすべての添付ファイルを保持する。
- カレンダー上の招集に無関係な添付ファイルを除外する。

カレンダーの正確な処理は、共存において最も困難な側面の1つです。また、カレンダーデータの損失は事業の進行に多大な悪影響を及ぼす可能性があるため、最も重要な課題の1つでもあります。

文書内のリンクとアイコンの処理

Lotus Notesユーザは、他の文書や情報源を参照するためのリンクを文書内で多用する傾向があります。このため、共存期間全体を通して、文書内のリンクが両方のプラットフォームで正しく機能することが重要です。たとえば、Notes上で稼働するワークフローアプリケーションから、あるアプリケーションへのリンクを含む通知が送信された場合、NotesとOutlookのどちらかで通知を開いた場合でもそのリンクが機能する必要があります。リンクの有効性は、リンクを含む文書がSharePointまたはInfoPathに移行された後も維持される必要があります。

Notes文書リンクの有効性を維持してワークフローを保持する方法の1つは、電子メール文書内のハイパーリンクをアプリケーションの現在の位置（Notes上かSharePoint上かを問わず）に自動的にリダイレクトすることです。このアプローチにより、移行期間全体を通して事業の継続性が保持されます。

Lotus NotesクライアントをSharePointサーバに接続することが必要な場合もあります。たとえば、エンドユーザはいくつかのNotes文書を選択して、SharePointにドラッグアンドドロップできる必要があります。さらに、Notes開発者はLotusScript APIを使用して、組織の業務規則に基づきNotesアプリケーションからSharePointにNotesコンテンツを直接プッシュできる必要があります。これにより、移行および共存の期間中、常に最新のコンテンツが配布される状態を維持できます。

最後に、Exchangeへの送信メッセージに埋め込まれるLotus Notes画像アイコン（データベース、ビュー、文書リンクなど）も元の形状で表示されることが望ましいです。これにより、移行および共存の期間中もエンドユーザがそのことを意識しにくくなります。自動化ソリューションにネイティブのNotesアイコンが含まれていると、ユーザが慣れ親しんだ印象を維持することができます。

Notes メールおよびカレンダーデータの SharePoint での表示

もう1つの重要な課題は、グループ間の共有または統合のために、NotesのメールやカレンダーをSharePointで表示することです。この目的には、Webサービス技術を採用した自動化ソリューションが役立つ可能性があります。標準のNotesメール、カレンダー、連絡先、タスク、ジャーナルアプリケーションをSharePointで表示するためのWebサービスを実装することができます。これらのWebサービスでは、Lotus Notesアプリケーションコンテンツの格納場所であるDominoへの直接接続を提供し、複数回のログインが不要な強力なシングルサインオン機能を備えている必要があります。

アプリケーションの処理

移行と共存では、アプリケーションが難しい課題となる可能性があります。Lotus NotesアプリケーションはNotes上での実行を前提としており、別のプラットフォーム上でのNotesアプリケーションの実行は技術的に困難を極める可能性があります。ただし、共存自動化ソリューションによっては、Webサービス経由で外部のデータソースにアクセスするための機能が備わっています。組織はその機能を利用して、バックエンドのNotesおよびDominoアプリケーションをSharePointのユーザインタフェースに表示し、更新することができます。

最後はアプリケーション開発の要件です。少なくとも数個のアプリケーションがMicrosoft環境で実行されるため、稼働中のNotesアプリケーションに.NET開発者がアクセスできる必要があります。共存ソリューションには、.NETのアプリケーションおよびプラットフォームとLotus Notes間の直接的な共存を.NET開発者が作成できる機能が必要です。

まとめ

IBM Lotus NotesからMicrosoft ExchangeおよびSharePointへの移行は、多くの組織で現実に行われています。共存は、多くの場合は数カ月、場合によっては数年にも及んでいます。企業や部門の合併におけるケースのように、移行ではなく共存自体が最終的な目標となる場合もあります。

相互運用性の確保には、多くの作業が必要であるように思われるかもしれませんが、しかし、プラットフォームを並行して使用する共存のシナリオでは、その期間中に相互運用性を確保することが事業の継続のために不可欠です。必要な情報伝達が行われなかったり、重要な機能やアプリケーションが使用できない期間が発生したりすると、事業に致命的な悪影響を及ぼす可能性があります。共存と相互運用性が長期的な目標である場合は、プラットフォーム間のシームレスな相互運用がプロセスの重要な部分となります。

したがって、成功する共存計画はシームレスなものでなければなりません。つまり長期間の機能停止や、不慣れでわかりにくいプロセスを使用しないとユーザが職務を行えないという状況は避ける必要があります。

自動化の導入により、共存がうまくいく可能性が高まるだけでなく、相互運用性を計画の一環としてより容易により詳細なレベルでITを達成することが可能になります。最も効果的な自動化ソリューションは、電子メールの添付ファイル、定例会議を含むすべてのカレンダーデータ、文書やアプリケーション内のリンクなど、きわめて詳細なレベルでの移行と相互運用を実現できるソリューションです。

Quest の共存ソリューション

クエスト・ソフトウェアは、NotesとMicrosoftの共存シナリオのため、あらゆる規模のソリューションを提供します。Quest Coexistence Manager for Notesは、電子メール、カレンダー、文書ハイパーリンクの共存を高い忠実性で実現することにより、Notes Migrator for Exchangeを補完します。また、NotesとExchangeの共存が長期間にわたる組織のために、継続型の共存機能も提供します。Quest Notes Migrator for SharePointとWeb Parts for SharePointは、NotesアプリケーションとSharePointアプリケーションの円滑な統合を実現します。

Technology Strategy Research について

Technology Strategy Research LLCは研究およびコンサルティング企業であり、ITプロジェクトのためのソフトウェアと自動化の価値に注力しています。同社の代表は、ソフトウェア開発とITプラクティスの分野で20年以上にわたり活躍しています。同社のWebサイトは www.technologystrategyresearch.comです。

Quest Software, Inc.について

クエスト・ソフトウェア(Quest Software, Inc.)は、アプリケーション、データベース、Windowsインフラストラクチャによるパフォーマンスおよび生産性の向上を支援する革新的な製品を提供しています。IT業務に対する深い専門知識、そして最善を追求する絶え間ない努力によって、クエスト・ソフトウェアは全世界50,000以上の顧客企業のITソリューションに対する高い期待に応えています。クエスト・ソフトウェアは、全世界にオフィスを展開しています。詳細については、www.quest.comを参照してください。

クエスト・ソフトウェア株式会社(Quest Software, Inc.)へのお問い合わせ

電子メール: info@quest.com
住所: Quest Software, Inc.
ワールドワイド本社
5 Polaris Way
Aliso Viejo, CA 92656
USA
Webサイト: www.quest.com

各地域および海外の所在地情報については、本社サイトを参照してください。

クエスト・ソフトウェア株式会社(Quest Software K.K.)へのお問い合わせ

電話: 03-5771-8620
電子メール: japansales@quest.com
住所: 〒107-0062
東京都港区南青山3-1-3
大手町建物青山ビル8F
Webサイト: <http://www.quest.com/japan/>

クエストサポートへのお問い合わせ

クエストサポートは、Quest製品の試用版をお持ちのお客様、または製品版を購入し、有効な保守契約書をお持ちのお客様がご利用いただけます。クエストサポートは、弊社のWebセルフサービスであるSupportLinkで、24時間体制のサービスを提供しています。SupportLink (<http://support.quest.com>)を参照してください。

SupportLinkでは、以下のことを行うことができます。

- 数千ものソリューション(ナレッジベースの記事/文書)をすばやく検索できます。
- パッチとアップグレードをダウンロードできます。
- サポートエンジニアにサポートを依頼できます。
- ユーザ事例をログに記録および更新し、その状況をチェックできます。

サポートプログラム、オンラインサービス、連絡先情報、およびポリシーと手順についての詳細な説明については、『Global Support Guide』を参照してください。このガイドは以下で入手できます。

[http://www.quest.com/japan/support/Global%20Support%20Guide%202.5\(J\).pdf](http://www.quest.com/japan/support/Global%20Support%20Guide%202.5(J).pdf)